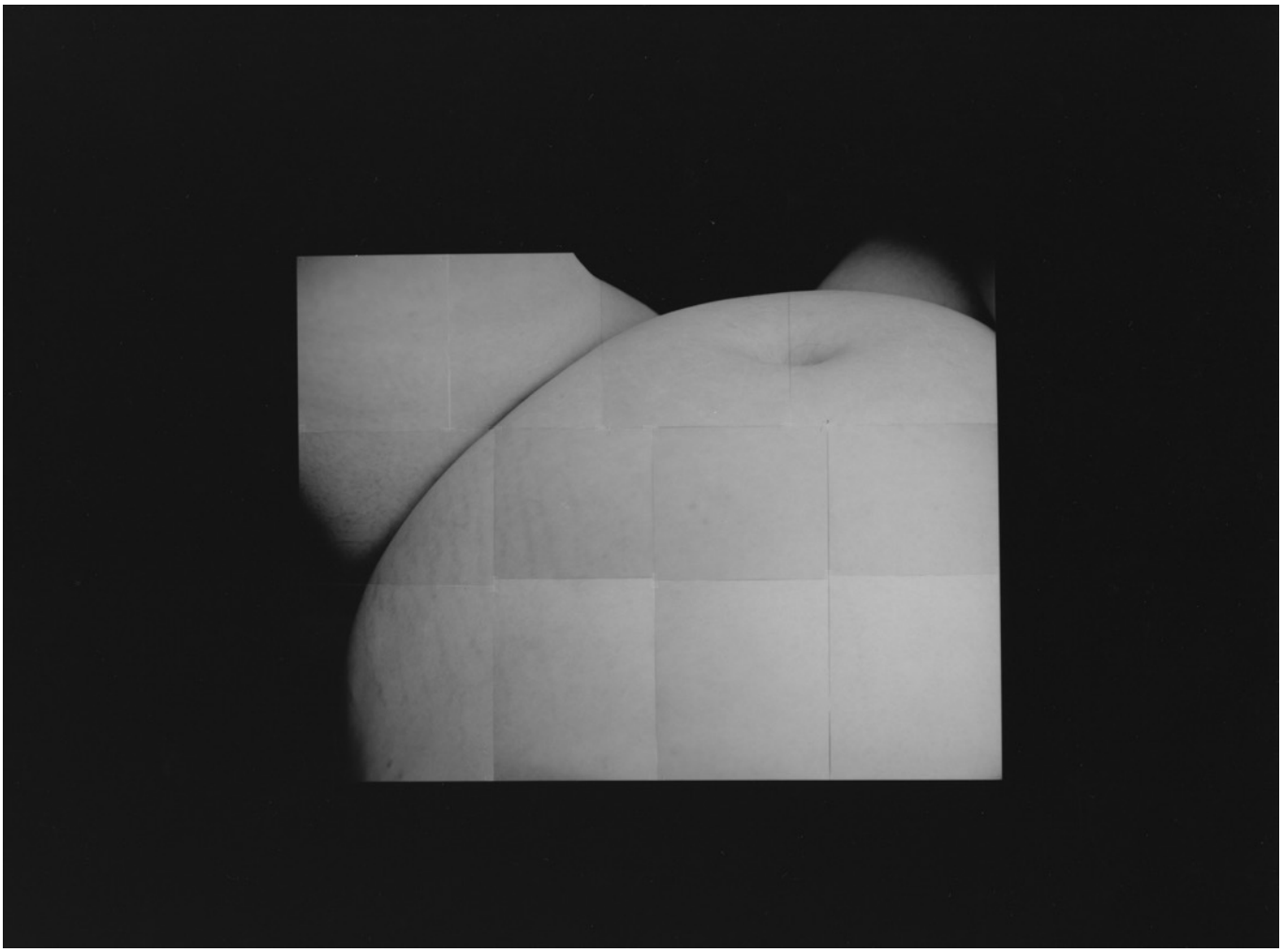
鷹野 隆大

連続企画 — 写真を問う: part 1

「bodies」



©Ryudai Takano, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

~~2025 年 5 月 27 日(火) - 7 月 12 日(土)~~
2025 年 5 月 27 日(火) - 7 月 19 日(土) ※ご好評につき会期を延長いたしました。

Yumiko Chiba Associates
東京都港区六本木 6-4-1 六本木ヒルズ　ハリウッドビューティープラザ　3F
営業時間: 12:00-19:00　　定休日: 日、月、祝日

この度、Yumiko Chiba Associates では、鷹野隆大の個展「bodies」を開催いたします。鷹野は 2006 年に写真集『IN MY ROOM』で第三十一回木村伊兵衛写真賞を受賞以降、セクシュアリティやジェンダーに関わる写真のみならず、写真という媒体の特殊性を問い直す多様な表現を展開し、国内外で高い評価を得てきました。

本個展「bodies」では、男性の裸体を捉えた「立ち上がれキクオ」「ヒューマンボディ 1/1」「ヨコたわるラフ」の各シリーズを展示します。写真は、画家が対象を描く「写す」行為に対し、自動的かつ機械的に被写体が「写る」ものであり、撮影者の主体性はカメラという装置と一体化することで後退していきます。しかし、鷹野は「近年は『写る』のではなく、『写す』『写される』という関係性の中で問いを立てたくなるような作品が増えている。この撮影主体を意識した問いは、絵画と同様の意識で画面を見ることを意味する。言わば、写真の絵画化である」と指摘しています。

特に「ヨコたわるラフ」シリーズは、西洋絵画の伝統的な主題である横臥像に範をとったものであり、絵画との関係を強く示しています。本展では、写真と絵画の間、すなわち「写す」ことと「写る」ことの狭間で彷徨うように、写真における身体表現の中での主体の位置を再考します。

本展覧会は、Yumiko Chiba Associates による展覧会シリーズ「写真を問う」の一環として開催いたします。ぜひご高覧ください。

アーティストステートメント

連続企画 — 写真を問う: part 1
「bodies」

多くの場合、写真において問われるのは、「何が写っているか」である。「どう写っているか」はほとんど問われないか、あるいは「何が写っているか」という問いのなかに紛れてしまうか、そのいずれかである。

この状況を同じ平面表現である絵画と比較してみる。絵画、とりわけ 19 世紀以降の絵画においては、「何が描かれているか」と「どう描かれているか」は、絵画を問うときの基本的な問いとして、ほぼ同時に発せられる。両者の違いはどこから来るのか。それを文法の面から考えてみる。

「何が写っているか」は「写る」の能動態による疑問形表現。一方、「何が描かれているか」は、「描く」の受動態による疑問形表現である。この違いが意味するのは、絵画においては描いた主体がどこかに存在することを言外に含んでいるのに対し、写真においては行為の主体である撮影者が捨象され、像（イメージ）が自立した存在となっている。極端に言えば、ある種の自然現象として自動的に像が現れたかのような表現となっている。

これは「描く」という動詞が動作の主体を要請するのに対し、「写る」という動詞には動作の主体が不要であるという、そもそもの違いを反映したものでもある。富士フイルムが発売しているレンズ付きフィルム「写るンです」は、こうした写真の特性を巧みに利用した命名と言えるだろう。

絵画において「何が描かれているか」と「どう描かれているか」がほぼ同時に問われるのは、絵画が人為によって生まれるものである以上、そこには必ず作者の意図があるはずだという意識がはたらくからである。画面を見る者は間もなく「作者はどう描いたのか」と問うようになるはずで、“描く主体”が鑑賞者の脳裏に登場するまでさほど時間はかからない。

同じことの裏返しで、写真において「どう写っているのか」という問いがなかなか前面に出てこないのは、それが人為であるという意識が希薄なため、“作為”との関連が深いこの問いが湧きにくいからである。もちろん写真においても「何が写されているのか」、「どう写されているのか」と撮影者の存在を含みながら問うことは可能である。しかしカメラという機械への依存度が高い画面であればあるほど、この問いを発することへのためらいが生まれる。おそらくここに写真と絵画の決定的な違いがある。つまり、画面とそれを生み出した主体との距離が否応なく異なるのである。こうした写真の性質には近代社会を問うひとつの契機（機械と人間の新たな共棲関係か、あるいは、自分が自分の主体であろうとする近代の病から抜け出る可能性か）が潜んでいると私自身は考えている。

ところが近年は「写る」ではなく、「写す」「写される」という関係性のなかで問いをたてたくなるような写真作品が増えている。撮影主体を意識したその問いは、すなわち絵画と同様の意識で画面を見ているということを意味する。言わば、写真の絵画化である。

ある写真作品を前にしたときに、「何が写っているか」と問うか、「何が写されているか」と問うか。言葉の上では微妙な違いだが、その内実は大きく異なる。果たして今回展示するわたしの作品はどちらの問いを鑑賞者に呼びおこすのだろう。

2025 年 4 月
鷹野 隆大

【トークイベント】
鷹野隆大 x 沢山遼 （美術批評家、武蔵野美術大学准教授）
2025 年 6 月 14 日(土) 16:00-18:00 (受付開始 15:45)
会場：六本木ヒルズ ハリウッドビューティープラザ 4F　定員：20 名*事前登録予約制
参加費：無料　協賛：ハリウッドビューティーグループ
*申し込み詳細等は改めてご案内いたします。

■関連情報

【個展】
「総合開館 30 周年記念　鷹野隆大 カスババ　―この日常を生きのびるために―」
2025 年 2 月 27 日(木) – 6 月 8 日(日)
会場 ： 東京都写真美術館　2 階展示室
営業時間 ：10:00-18:00 （木・金曜日は 20:00 まで、図書室を除く）　定休日 ： 毎週月曜日（月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館）、年末年始および臨時休館

【書籍刊行】
展覧会図録
『総合開館 30 周年記念 鷹野隆大 カスババ　―この日常を生きのびるために―』
発行年 ：2025 年　本体価格 ：3,960 円(税込)　発行 ： 東京都写真美術館　論考 ： 沢山遼、伊藤亜紗、高嶋慈、遠藤みゆき（東京都写真美術館 学芸員）

鷹野隆大作品集『KASUBABA 2011-2020』
発行年 ：2025 年　本体価格 ：5,280 円(税込)　著者：鷹野隆大　発行：株式会社ブックエンド

『CVD19』
発行年 ：2025 年　本体価格 ：3,100 円(税込)　著者：鷹野隆大　発行 ： Goliga Books; Limited Edition　*95 部限定

■アーティストプロフィール

鷹野隆大

1963 年　福井県生まれ
東京在住

[主な個展]

1994　「こわれてゆく女の標本」 平永町橋ギャラリー（東京）
「日本」 コニカプラザ東ギャラリー（東京）
1995　「ポルノグラフィー」 平永町橋ギャラリー（東京）
1996　「集合する肉体」 イル・テンポ（東京）
1999　「人体ーその等倍という幻想」ツァイト・フォト・サロン（東京）
2000　「ヨコたわるラフ」ツァイト・フォト・サロン（東京）
「カ・ラ・マ・ル」ギャラリーmai／（東京）
2001　「たとえば、裸体」イル・テンポ（東京）
2002　「Twelve Messengers（十二使徒）」ツァイト・フォト・サロン、（東京）
2005　「Common Sense」ツァイト・フォト・サロン（東京）
2006　「イン・マイ・ルーム」NADiff Gallery（東京）
「第 31 回木村伊兵衛写真賞受賞作品展　In My Room」コニカミノルタプラザ ギャラリー C（東京）
「男の乗り方」ツァイト・フォト・サロン（東京）
「ぼくの部屋」ギャラリーM（愛知）
2007　「毎日写真」GALLERY at lammfromm（東京）
2008　「毎日写真」 ユミコチバアソシエイツビューイングルーム/ 銀座（東京）
「ぱらぱら」ツァイト・フォト・サロン（東京）
「ぱらぱら 2002/2008」ユミコチバアソシエイツビューイングルーム/ 銀座（東京）
「ゆらぎ」カームアンドパンクギャラリー（東京）
2009　「EARLY MONOCHROME」日本橋高島屋 6 階美術画廊 X（東京）
「おれと」NADiff Gallery （東京）
「公開製作 46　記録と記憶とあと何か」府中市美術館（東京）
GALLERY M（愛知）
「男の乗り方」GALLERY at lammfromm（東京）
新宿高島屋 10 階・美術画廊（東京）
2010　「イキガー」gallery ラファイエット（沖縄）
2011　「鷹野隆大展」E&C ギャラリー（福井）
2012　「モノクロ写真」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）
「立ち上がれキクオ」ツァイト・フォト・サロン（東京）
「NADiff Window Gallery vol.18 毎日写真」NADiff Window Gallery（東京）
2013　「ビジュアルアーツギャラリー写真展 vol.139 「とりあえず撮ってみた」」ビジュアルアーツギャラリー（大阪）
「香港、深圳 1988」ツァイト・フォト・サロン（東京）
2014　「2014 年 1 月から比較的最近まで、撮影順に」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）
「ヒモとコーラ：大宰府の高松次郎」Capsule（東京）
2015　Zan-ei, Morioka book store（東京）
2016　「光の欠落が地面に届くとき　距離が奪われ距離が生まれる」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）
「距離と時間」NADiff Gallery（東京）
2017　「Y 式」Operation Table（福岡）
2018　「欲望の部屋」AYUMI GALLERY CAVE（東京）
「Find Your Fantasy」FANZA×#FR2 @#FR2 GALLERY 2（東京）
2020　「With me」Ibasho Gallery（アントワープ、ベルギー）
2021　「鷹野隆代 毎日写真 1999-2021」国立国際美術館美術館（大阪）
2022　「鷹野隆代 ある日の東京タワー」Capsule（東京）
2024　鷹野隆大 「 写真 」ZEIT-FOTO kunitachi（東京）
2025　総合開館 30 周年記念　「鷹野 隆大 カスババ -この日常を生きのびるために-」東京都写真美術館（東京）

[主なグループ展]

2000　「VOCA 展 2000」上野の森美術館（東京）
2001　「手探りのキッス　日本の現代写真」東京都写真美術館（東京）
2002　「Japanese Contemporary Art 展」トルコ中央銀行ギャラリー（イスタンブール、トルコ、他）
「手探りのキッス　日本の現代写真」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）
2003　「Mask of Japan : Japanese Contemporary Photography」aura gallery（上海、中国）
2004　「日常の変貌」群馬県立近代美術館（群馬）
「out of the ordinary / extraordinary: Japanese contemporary photography」ケルン日本文化会館（ケルン、ドイツ、他）
2005　「85／05：幻のつくば写真美術館からの 20 年」せんだいメディアテーク（宮城）
「ポスト･ジェンダー」ティコティン美術館（ハイファ、イスラエル）
2007　「現代日本芸術祭」ヘイリ芸術村（坡州、韓国）
「Japan Caught by Camera - Works from the photographic Art in Japan」上海美術館（上海、中国）
2007-2008　「A Private History」フォトグラフィックセンター（コペンハーゲン、デンマーク）
VB-フォトグラフィックセンター（クオピオ、フィンランド）
2008　「田中麻記子　鷹野隆大」ユミコチバアソシエイツビューイングルーム/ 銀座、東京
「液晶絵画展　STILL｜MOTION」三重県立美術館（三重）/国立国際美術館（大阪）/東京都写真美術館（東京）
「鷹野隆大×尾仲浩二　上海二人展」ギャラリー街道（東京）
「写★新世界」せんだいメディアテーク（宮城）
「Backlight 08 Tickle Attack 8th International Photographic Triennial」Art Hall TR1（タンペレ、フィンランド、他）
「Daegu Photo Biennale 2008」EXCO（大邱、韓国）
2009　「第 5 回　太宰府天満宮アートプログラム　高松次郎｜鷹野隆大“写真の写真”と写真」 太宰府天満宮宝物殿、特別展示企画室（福岡）
「中国現代美術との出会い―日中当代芸術にみる２１世紀的未来」栃木県立美術館（栃木）
2009-2010　「貴方を愛するときと憎むとき」沖縄県立博物館・美術館コレクションギャラリー２（沖縄）
2010　「まばゆい、がらんどう」東京藝術大学大学美術館（東京）
「私を見て！ヌードのポートレイト」東京都写真美術館（東京）
「木村伊兵衛写真賞 35 年周年記念展」川崎市民ミュージアム（神奈川）
「Beyond The Border」Tangram Art Center（上海、中国）
「スナップショットの魅力-かがやきの瞬間-」東京都写真美術館（東京）
「写真分離派宣言」NADiff Gallery（東京）
2011　「MODERNITY STRIPPED BARE」University of Maryland Art Gallery（メリーランド、アメリカ）

「発科展」竜宮美術旅館（横浜）
「AKARI」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）
「印刷-日本現代写真集展」（パリ、フランス）
「ANT!FOTO 2011」Kunstraum Dusseldorf（デュッセルドルフ、ドイツ）
「鷹野隆大×秦雅則　展示とトーク第１回［写真か？］」blanClass（横浜）
2012　「PORTRAITS」日本橋高島屋６階美術画廊Ｘ（東京）
「MiO PHOTO OSAKA2012」天王寺ミオ（大阪）
「鷹野隆大×秦雅則　展示とトーク第２回［写真は？］」blanClass（横浜）
「鷹野隆大×秦雅則　展示とトーク第３回［写真の］」blanClass（横浜）
「写真分離派展「写真＋」」中京大学アートギャラリー Ｃ・スクエア（愛知）
「Missing You」渋谷ヒカリエ 8/CUBE1,2,3（東京）
「黒い白」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）
2013　「CABINET LIBRARY Vol.5」Port Gallery T（大阪）
「Works by Edition Works, 東恩納裕一、鷹野隆大」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）
「鷹野 隆大＋秦 雅則［写真か?］展」BankART Studio NYK 1F / BankART Mini（横浜）
「Face Value: Portraits from The Kinsey Institute」The Kinsey Institute Gallery（インディアナ、アメリカ）
「引込線 2013」旧所沢市立第２学校給食センター（埼玉）
2014　「Complex Media コンプレックスメディア展 by 版画工房エディション・ワークス」アートコンプレックス・センター（東京）
「写真分離派展「日本」」京都芸術大学ギャルリ・オーブ（京都）
「これからの写真　光源はいくつもある」愛知県美術館（愛知）
「Unknown Nature Series No.5「Recombination 組み換え」」アユミギャラリー（東京）
「5 人の写真」ツァイト・フォト・サロン（東京）
TOKYO PHOTO 2014「日本の写真ってなんですか？1 部」東京ビル TOKIA（東京）
「複々線」現代 HEIGHTS Gallery Den（東京）
「ジャパン・アーキテクツ 3.11 以後の建築」金沢 21 世紀美術館（石川）
「ヴァンヌーボ×15 人の写真家」竹尾 見本帖本店 2F（東京）
「Group Exhibition vol. 2 HAKKA」BankART Studio NYK/2A ギャラリー（神奈川）
2015　「Come Close: Japanese Artists Within their Communities」BUS Project（コリングウッド、ビクトリア、オーストラリア）
「エディション・ワークス Prints & Originals」GALLERY SPEAK FOR（東京）
「きっと、だれもが、だれかに、恋をする」Gallery Soap（福岡）
2015-2016　「愛すべき世界」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）
2016　「WATCHQUEEN 展」スパイラルホール（東京）
「夏・終わりとはじまり」東京日本橋高島屋６階美術画廊Ｘ（東京）
「Internationale Photoszene Köln」Bruch & Dallas（ケルン、ドイツ）
「総合開館 20 周年記念　TOP コレクション　東京・TOKYO」東京都写真美術館（東京）
「友人作家が集う - 石原悦郎追悼展 "Le bal"」ツァイト・フォト・サロン（東京）
2016-17　「moment」Alternative Space LOOP（ソウル、韓国）
2017　「写真分離派「写真の非倫理 - 距離と視角」」NADiff Gallery（東京）
Group Exhibition Vol.3「HAKKA」ミツバコウサクショ（東京）
「総合開館 20 周年記念 TOP コレクション「シンクロニシティ」-平成をスクロールする 秋期」東京都写真美術館（東京）
2017-2018　「美術館開館 10 周年記念展　邂逅の海―交差するリアリズム」沖縄県立博物館・美術館（沖縄）
2018　「浅間国際フォトフェスティバ゛ル」御代田町（長野）
2019　「国際ダンス映画祭 2019」スパイラルホール（東京）
「解放され行く人間性 女性アーティストによる作品を中心に」東京国立近代美術館（東京）
「アマナコレクション展 04 – 鷹野 隆大、津田 直」IMA gallery（東京）
「JAPAN UNLIMITED frei_raum Q21 exhibition space /Museums Quartier（ウィーン、オーストリア）
2020　「コレクション展　2020-Ⅱ 特集 肖像(わたし)」広島市現代美術館（広島）
2020-2021　「公開制作の 20 年　メイド・イン・フチュウ」府中市美術館（東京）
2021　「日本の現代写真 1985-2015」東京都写真美術館（東京）
「DECADE」Operation Table（福岡）
「写真の写真と写真」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）
「TOKYO: ART&PHOTOGRAPHY」Ashmolean Museum Oxford」（オックスフォード、イギリス）
2022　「第 39 回写真の町東川賞受賞作家作品展」東川町文化ギャラリー（北海道）
「転覆する体： アート、ジェンダーとメディア」The 5th Floor（東京）
「距離の洞窟 鷹野隆大・山城知佳子 二人展」Yumiko Chiba Associates（東京）
2023　「所蔵作品展 MOMAT コレクション」東京国立近代美術館（東京）
2024　「コレクション２ 身体―――身体」国立国際美術館（大阪）
「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？――国立西洋美術館 65 年目の自問｜現代美術家たちへの問いかけ」国立西洋美術（東京）
BankART Life7「UrbanNesting: 再び都市に棲む」 BankART Station＋周辺各所［関内地区、みなとみらい 21 地区、ヨコハマポートサイド周辺地区］（神奈川）

[受賞]
2006　第 31 回木村伊兵衛写真賞 受賞
2021　文化庁令和 3 年度(第 72 回)芸術選奨美術部門文部科学大臣賞 受賞
2022　第 38 回写真の町東川賞国内作家賞 受賞

[コレクション]
東京国立近代美術館
国立国際美術館
東京都写真美術館
広島市現代美術館
川崎市市民ミュージアム
府中市美術館
上海美術館
太宰府天満宮
国際交流基金
The Kinsey Institute
JPMorgan Chase Art Collection
アマナコレクション

【本展に関するお問合せ】ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。
ユミコチバアソシエイツ　〒106-0032 東京都港区六本木 6-4-1　六本木ヒルズ ハリウッドビューティープラザ 3F
[Tel] 03-6276-6731　[e-mail] info@ycassociates.co.jp　[website] www.ycassociates.co.jp　[営業時間] 12:00-19:00　[定休日] 日・月・祝日